

平成25年度 学校評価

【教育目標】 校訓「自律・創造・協力」の精神のもと、地域に根ざした学校づくり、地域に貢献できる生徒の育成をめざす。

【学校経営の重点】 生徒一人ひとりに応じた「学び直し」 社会の一員であることを意識した積極的な「生徒指導」 自己実現に向けて努力する「キャリア教育」

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 授業の改善に取り組み、学力向上を推進する	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大学年会議での情報交換の充実 ・習熟度別やTT、少人数制授業の採用 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大学年会議はさまざまな角度からの生徒理解に非常に有効である。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・面談や中学校訪問等を通じて入手した生徒に関する情報(療育手帳保持・LDやADHD的な傾向等)を、マル秘扱いで資料化して、個々の生徒理解や職員間の共通理解に役立てる。 ・今年度新設された授業公開週間を、内容を充実させながら受け継いでいく。 ・初任者の成長をさまざまな企画を取り入れながら、学校全体で支えていく。 ・4時からの勉強会「早勉」を企画し、学年を問わず一般常識を学ばせ、進路実現に向けて自覚と学力をアップさせる。 ・特別支援の対象生徒には個別の支援計画を作成したり、特別支援の教員を講師に招いた講演会を企画したりする。
(2) 校種間の連携に取り組み、滑らかな成長を推進する	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒による全教員に対する授業評価の実施 ・授業公開週間の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校でのサマースクールはすばらしい校種間連携になっている。 ・小高連携で発達段階の違う子どもたちに触れることで、本校教師の視野は広がる。 		
(3) 特別支援教育の充実に取り組み、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオを活用した新任教師の研究授業 ・新任教師の近隣小学校への出前授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の合評会に市教育委員会の主事が来て下さるのが緊張感が生まれてよい。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに近隣の小学生を招待した本校でのサマースクール。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開週間の設定は教員の意識・緊張感が高まって好い効果を生むと思う。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援が必要な生徒の調査と職員会議での共通理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業や少人数制授業を生徒の学力向上にいかにつ率的に繋いでいくか。 		

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 道徳性の涵養に取り組み、良好な人間関係づくりに努める	3.4	・いじめに関する全職員の共通理解 ・いじめに関するきめ細かい指導体制	・いじめに対する体制がしっかりとできた。問題の拡大化を未然に防ぐこともできている。	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校カウンセラーの訪問回数を増やしてもらうよう、粘り強く教育委員会に働きかける。 ・カウンセリングルームの有効活用とカウンセラーによる講演を企画してはどうか。 ・教員がカウンセラー資格取得のための校外研修に積極的に参加できるように支援する。 ・3学期に人権教育講演会を開催する。 ・来客の接待にも耐えうる進路指導室を新設する。 ・体験活動、就業活動、ボランティア活動等に係る教育活動を高等学校における科目の履修とみなすための研究を継続的に行うとともに、校内での実践に取り組む。 ・教員のためにもLINEやFacebookなどSNS(ソーシャルネットワークサービス)に対する研修を行う。
(2) 基本的な生活習慣の確立に取り組み、問題行動の未然防止を図る	3.1	・気仙沼に対する募金活動 ・授業集中強化週間の実施	・募金活動はTVや新聞などのメディアにも取り上げられるなど、地域へのよいアピールになっている。		
(3) 相談体制の充実に取り組み、不適応行動への早期対応及び長期欠席の抑止・改善を図る	3.0	・情報モラル講演会(DeNA) ・年5回の生徒面談週間の実施	・募金活動は奉仕の精神や思いやりの心を育てるのにより機会となっていると思う。		
(4) 進路指導の充実に取り組み、社会的自立に必要な能力を育成する	3.4	・全生徒に対する家庭訪問による保護者との連携強化 ・学校カウンセラーの適宜活用	・ラインやフェイスブックを介したもめ事が急増しているため、情報モラル講演は今日では必要不可欠なものとなっている。		
		・面接練習、ステップアップの充実 ・自衛隊体験入隊の実施	・生徒に接する機会は面談や家庭訪問などで比較的しっかりと確保できている。		
		・全校一斉一般常識テストの実施 ・外部講師による「身だしなみセミナー」の実施	・進路の体制がしっかりとってきた。		
			・いじめに対する生徒の感覚を修正するのにまだまだ時間がかかりそう。 ・学校カウンセラーの訪問回数が少なすぎる(年に5回)		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 食育を通じた生活改善に取り組み、望ましい生活習慣を育成する	2.5	・給食アンケートの実施と食育教育の充実 ・食事中のマナーや後片付けの指導	・給食便り等で生徒の健康面をサポートできている。	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の数を精選するとともに、「部活動の活性化」を次年度の学校目標に掲げる。 ・食育に関する講演会を計画する。 ・食事に関するアンケートを学校全体で行い、結果を今後の指導に生かす。 ・本年度、県高等学校給食研究会を運営する中で得たさまざまなノウハウを本校にも生かす。 ・地元野菜(尼芋・富松一寸豆etc)の畑を作って、生徒とともに栽培してはどうか。
(2) 体育・スポーツ活動の充実に取り組み、体力・運動能力の向上に努める	2.6	・給食便りの充実 ・給食業者の公正な選定	・生徒の栄養面と健康面を十分に考慮した業者選択作業が行えた。		
		・兵庫県高等学校給食研究会の運営	・給食研究会では、栄養に関する貴重な情報交換ができた。		
		・改修工事等で厳しい条件下にあるが、体育祭を実施した。	・体育祭は本当に生徒が頑張っていた。		
		・体育の授業を行う場所の工夫 ・アルバイトを奨励し、仕事と学習の両立の指導にあたる。	・仕事やアルバイトの相談に力をいれている。		
			・校舎改修工事の関係で体育の授業展開が非常に難しくなっている。		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1)安全教育の充実に取り組み、登下校及び校内の安全確保に努める	3.3	・職員の立ち番、登下校指導の実施 ・学校安全点検の実施	・立ち番や巡視体制が確立されている。 ・自転車通学生が多いので、自転車教室は有意義なものとなっている。	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設校舎ができて、公道を横断することが日常となっているので、立ち番等の強化や適切な街灯の設置等に取り組む。 ・地域とともに行う地域のための防災避難訓練をさらに充実させ、防災資機材や食料の備蓄についても今後考えていく。 ・1/17日の「震災追悼行事」をリニューアルする。 ・登下校の自転車指導を強化する
(2)防災教育の充実に取り組み、危機管理能力の向上に努める	3.6	・外部講師による自転車安全教室の実施 ・防災マニュアル等を毎年改善	・防災士協会の方と協同行った今年の防災避難訓練は充実したものとなった。		
		・文部科学省「防災教育チャレンジプラン」への加盟	・独居老人の安否確認はすばらしい取組であると思われる。		
		・地域の独居老人の安否確認訓練を含む年に2回の防災避難訓練の実施	・大改修工事の進捗状況で生徒の導線が変わってしまうのが大変だ。		
		・防災士協会との連携の下に行った防災避難訓練。 ・1/17日に行う「震災追悼行事」			

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1)地域資源の活用に取り組み、開かれた学校園づくりに努める	3.4	・学校自己評価・生徒による授業評価等、4種類の評価アンケートの実施とホームページでの結果公開	・学校に関する情報を包み隠さず公開することで、課題も浮き彫りになるが、保護者からの信頼も獲得できている。	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・どんどん更新されている学校のホームページを生徒たちも見るように情宣活動を行う。 ・年3回の中学校訪問を充実させる。 ・携帯から本校のHPが閲覧できるように取組を行う(尼崎市の規約改正を含む)。
(2)学校評価の活用に取り組み、学校運営の改善を図る	3.3	・前本校事務長を招いたPTA対象の「陶芸教室」の実施 ・各学年だよりの定期的発行	・今年度はHPの更新がベースアップしたり、学年だよりが定期化し、タイムリーな情報を保護者等に提供できている。		
(3)教職員の資質向上に取り組み、学校の組織力向上に努める	3.2	・学校評議員会の年2回実施 ・評価育成システムにおける面談の複数回実施	・本校とえば「地域コミュニティ活動」と認識されるように次第になってきた。		
		・授業公開週間の設定	・日々の学校生活の中で、先生方に「粘り強い生徒指導力」が定着しつつある。 ・学校評価の結果を次年度の教員配置に活用している。		

教育目標

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1)教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	3.2	・生徒一人ひとりに応じた「学び直し」のために、ベーシック国語やベーシック数学など、基礎固めに重点を置いた学校設定科目を配置している。	・担任の先生方を中心に、丁寧で粘り強い生徒指導が行われている。 ・問題行動が起こったときでも、学年と生徒指導部、管理職が一体となって対応することができている。	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育目標や今年度の重点目標を分かりやすいキャッチフレーズの形で、職員室等に掲示するようにする。 ・生徒の基礎学力を向上させるためのさまざまな企画に学校全体で取り組む。
(2)教育目標の具現化と指導の充実	3.2	・社会の一員であることを意識した積極的な「生徒指導」の実現に向けて、積極的な声かけ・面談週間の設置・家庭訪問等を実施している。	・進路指導部を中心にいろいろな新しい取り組みが行われるようになり、「キャリア教育」は確実に前進している。		
		・自己実現に向けて努力する「キャリア教育」の活性化に向けて、本年度は自衛隊への体験入隊・外部講師による「身だしなみセミナー」等の新たな取り組みを行うとともに、進路通信も積極的に発行している。	・第1学年の総合的な学習において、類型選択と自己の進路をリンクして考えさせることで、生徒の進路に対する考えが深まった。		
		・各学年、毎週月曜日の学年会の定例化	・先週のクラスでの出来事や生徒指導など振り返りができて、学年内で共通理解が深まった。また、その週の委員会・会議など学年としての課題が明らかにできた。		

研究テーマ

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1)研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	3.0	・新校設立に伴う学校組織及び運営の研究 ・地域コミュニティ活動の研究	・中学校時の遅れを取り戻させるのに、少人数制授業やTT、習熟度別授業が効果を発揮している。	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・中央地域振興センターとの連携を一層強め、参加する行事数を増やすなど、地域コミュニティ活動をさらに充実させていく。 ・効率的に運営ができ、さらに生徒に適したモジュール授業のあり方を職員会議等を通じて、話し合う。 ・校舎の増改築中のため、教室の使い方や授業1コマの時間設定など、来年度の授業のあり方をしっかりと継続的に話し合う。 ・4つの系列を生かした「進路に強い琴ノ浦」を定着させるための委員会(チーム琴ノ浦)を発足させる。
(2)研究テーマの具現化と指導の充実	2.9	・基礎学力向上と3修制実現のためのモジュール授業のさらなる研究 ・第1学年の総合的な学習の運営	・第1学年の総合的な学習はしっかりとした成果を上げており、生徒の進路意識が深まっている上に、第2学年でのクラス分けも徐々にイメージが固まってきた。		
		・生徒の能力、適性、進路に対応する教育課程のあり方の研究	・モジュール授業の回数や回数について新たな発想が生まれてきた。		
			・中央地域振興センターと連携した地域コミュニティ活動が行えるようになってきた。		